

田中電気のお仕事紹介

川治ダムCCTV設備設置工事（河川監視カメラ）

—安心・安全のお手伝い。 国土交通省 関東地方整備局のお仕事です—



ダムの外側。写真左側にある茶色い箱のようなものが放流ゲート

今回は、栃木県日光市鬼怒川上流にある川治ダムの『CCTV設備設置工事』をご紹介します。ダム放流時に河川に危険がないか、特に人がいないかを監視するのが目的です。

川治ダムは、利根川総合開発の一環として鬼怒川に計画されたアーチ式コンクリートダムです。洪水の調節と、濁水時の水の供給という役割で私たちの暮らしを守り支えています。

堤高140メートル、堤長320m、貯水量は76,000m³。実際に上から下を見ると足がすくみ体が動きませんでした！管理支所で、不審者が入り込まないようにする為か、事前に準備した申請書のチェックを受けた後、地上からエレベーターに乗ってぐんぐん下降。まるで要塞のような通路は水が一滴も漏れないように密閉された空間で、電気がないと真っ暗！閉所恐怖症の私としてはここで閉じ込められたらどうしようという不安と息が吸えない感覚に陥るのを必死に抑えつつ2度エレベーターを乗り換えダムの底へ。線のようにつたって見える通称キャットウォーク(まさに猫が歩く道のような)を歩き移動しました。カメラ支柱基礎工事は、固定するために絶壁にある岩盤を削岩機で掘るのに3日かかり、落下や落石に注意しながらの工事です。更に、工期にお客様にお渡し出来るよう、雪が降る12月前には基礎工事を終わらせるなど気象状況や施工条件も考慮し、土木・電気・通信工事の施工管理を行うのが田中電気の仕事です。

川治ダム。6つのゲートから放流されます（写真左）
ダム内側から上を見上げた様子。銀色のカバー内側に通線工事を行いました（写真右）

田中電気の社員紹介 今月のこの人！

今回の川治ダムの現場代理人（現場の責任者）です。入社22年目。電気通信工事の大ベテランの橋本係長は、とても紳士的。もの静かに仕事を淡々とキッチリ進めます。複雑な工程を効率よく組んでいきます。レインボーブリッジのてっぺんに交通量を監視するカメラを取付けた経験も。海拔150mの高さもまったく怖くないとのこと！
趣味は仲間との魚釣り。緊張の現場から離れる時は、のんびりした雰囲気でご過ごすのが好きとのこと。
中3、小5の2人の男の子を持つお父さん。今日も現場でがんばっています。



ネットワーク事業部 技術部
橋本 浩 係長

お問合せは、0120-150-712

または info@tanaka-denki.co.jp

昨年に引き続き大盛況！『第13回震災対策技術展』に たくさんのご来場をありがとうございました！



2/5(木)～2/6(金)の2日間、パシフィコ横浜にて開催。当社からは、災害時の連絡手段として非常に有効な無線システムを出展し多くのお客様から関心をいただきました。全体として、8,115名(昨年度7,935名)の来場者があり、昨年よりも多くのお客様が来場されました。年々震災への関心が高まっているようです。

1対1の個別通信しかできない衛星電話と比較して、MCA無線機は、個別通信に加え、例えば地域ごとにあらかじめグループを指定して通信する等のグループ通信、一度に全員に通信する一斉通信も行え、大手から中小企業、また、市区町村各自治体の皆さまの防災通信網として今、大変注目を集めています。

衛星電話からMCA無線機への変更を考えているというお客さまがたくさんいらっしゃいました。

その他、無線機は様々な機器とも連動することが可能です。

企業BCP(事業継続計画)など災害時だけでなく、普段の業務にも大変便利に使えます。無線機のことなら昨年度MCA無線機販売実績日本一の、田中電気に全てお任せください！

お問合せ：03-3253-281



江戸の歴史

『東郷神社』

シリーズ No. 26

御祭神の東郷平八郎命は、弘化4年(1847年)12月22日に薩摩藩士・東郷吉左衛門の4男として鹿児島市加治屋町で誕生、昭和9年(1934年)5月30日88歳で東京麹町三番町で薨去されました。

御祭神は幕末19才で薩摩藩の海軍に入り明治維新前後の海戦に従事、明治4年(1871年)24才の時にイギリスに留学してウースター号等で7年間厳しい訓練に耐え、海軍魂を培って帰国し立派な日本海軍士官となりました。

日露戦争(1904～1905年)では、聯合艦隊司令長官として三笠艦上に「皇国の興廃此の一戦に在り、各員一層奮励努力せよ」との乙旗を掲げ、露国のバルチック艦隊を日本海において撃滅して世界の海戦史上空前絶後の完全な勝利を成し遂げられました。この大勝は、わが国を国難から救っただけではなく、当時ロシア等大国の植民地政策の圧力下にあった国々に、大きな喜びと希望を与えました。昭和9年日本の偉大な世界的英雄が天寿を全うされるや「至誠は神に通じる」とその一生を貫かれた御徳を長く後生に伝えて顕彰するため、時の大角海軍大臣は各界の識者にはかり、財団法人東郷元帥記念会を設立、全国民に呼びかけて国民からの浄財によって神社を創建することになりました。御鎮座地は、明治神宮に近い元鳥取藩主池田侯爵邸を選び、昭和12年9月に地鎮祭、同15年5月27日(日本海海戦で完勝した日)に御鎮座祭が行われ、檜と檜素木、神明造檜皮葺の東郷神社が完成しました。東郷神社では、御祭神の「神明は唯平素の鍛錬に力(つと)め戦はずしてすでに勝てる者に勝利の栄冠を授けると同時に一勝に満足して治平に安ずる者より直に之をうばふ古人曰く勝って兜の緒を締めよ」に因み、勝利の神様として御真筆からとった「勝」の字を勝負の御守「勝札」として授与しております。筆者も各種スポーツ人が求めている「勝札」を幾度かいただいております。

JR原宿駅竹下口より徒歩3分(東郷神社社務所参照)

